



幼年期教育研究委員会

おんぎだより

令和6年9月17日(火) 発行 No.3

「野依保育園参観と語る会」報告

7月29日(月)、野依保育園を会場に、オンラインによる「園参観と語る会」が開催されました。子どもの思いを大切にしたい遊びの工夫や子どものことを考えた環境の配慮、小学校につながる子どもの姿が至るところで見られ、とても勉強になりました。園参観と語る会に参加された方の声を紹介します。

園参観



参加者の声



小学校

- ・幼児教育の中で環境を大切にしていることがよく伝わってきた。小学校教育でも、子どもたちの「やってみたい」を学びの出発点にしていきたいと思う。
- ・遊ぶ中で勉強していると改めて感じた。のびのびと楽しく生活する中で、知識・技能、考えるなどを伸ばしており、小学校の授業につながっていると思った。
- ・子どもの「したい活動」が行える環境設定や、子どもから出た発想やアイデアを生かした体験活動が行われていて、子どもたちがとても楽しそうだと感じた。

幼保こども園

- ・小学校が、座って授業を受けるだけでなく、前に立ってスピーチをしたり、動き回って名刺交換をしたり、2年生と学校探索をしたりと、動きながらの授業が印象的だった。
- ・小学校参観では、一日の流れや、教科の内容を知ることが出来てよかった。園では、子どもたちの興味をひく環境設定をし、やってみたいという意欲を高めていると感じた。
- ・子どもたちと試行錯誤する保育展開や、「やってみたい」を叶えてあげられるおもちゃの配置や環境設定を参考にしたいと感じた。
- ・小学校では、食事時間が15分から20分程度であると知り、入学までに時間配分を自分で決められるようになったり、当番活動、身の回りの整理整頓なども園で意識できるか考えたい。



語る会

テーマ

幼保こども園と小学校との
なめらかな接続のために大切にしたいこと

幼保こども園



- ・小学校の先生方も、子どもたちの自主性を大切に伸ばしていることがよくわかり、幼保のうちから育てたい姿をいろいろと考えることができた。架け橋プログラムが少しずつ浸透してきていると実感した。
- ・小学校生活の中で、話を聞く力、友達の意見を聞いたり、見たいしながら考える力が身につくとよいと聞くことができ参考になった。また、一つのテーマの中で、子どもたちが主体となり、様々な媒体を使用して自ら学習していく力を今後の保育中で取り入れていきたい。
- ・保育園の遊びや生活の中でのたくさんの経験が小学校に行ってから必要になってくることは参考になった。小学校の土台作りのためにどのような保育ができるか考えて、架け橋になれるようにしていきたい。
- ・情報交換など、交流の機会を増やして、一緒に子どもを理解していくことを進めていきたい。

小学校



- ・園で小学校へスムーズに上がるために、カレンダーを使って数字に触れたり、スピーチを通して言葉に触れたり、お店やさんごっこをしたりと「日常生活の中で遊びながら学ぶ」ということが子どもたちにとって大切であることがよくわかった。小学校でも、遊びを取り入れて楽しく学ぶことができるような工夫をしていきたいと思った。
- ・園の先生方が一生懸命子どもたちのことを考えて幼児教育・保育をなさっているのがわかった。小学校の学びがそうした育ちの上にあることから、日々もっと園とつながっていくことで、子どもたちが発展的に学ぶことができると感じた。
- ・発達段階の違いだけで、保育園も小学校も子どもたちへの思いは同じであると思った。子どもたちが楽しく学んでいけるような取り組みをしたいと思う。
- ・小学校入学前に園ごとで様々な体験をしながら経験を積んで小学校へと繋がっている話を聞くことができてすごくよかった。入学前の姿はなかなか知ることができないので、園での生活について知る機会はとても貴重だと感じた。
- ・ギャップをなくすためにこういった会を持ち続けることが大切だと感じた。

園から小学校への就学に向けて、「こんなことを意識して取り組んでいきたい」「子どもの学びたい気持ちを続けられるように、教材の工夫をしたい」など、連携・つながりを意識したご意見が多くありました。

～近隣の園と小学校で、遠慮せず声を掛け合って交流を始めていきませんか～